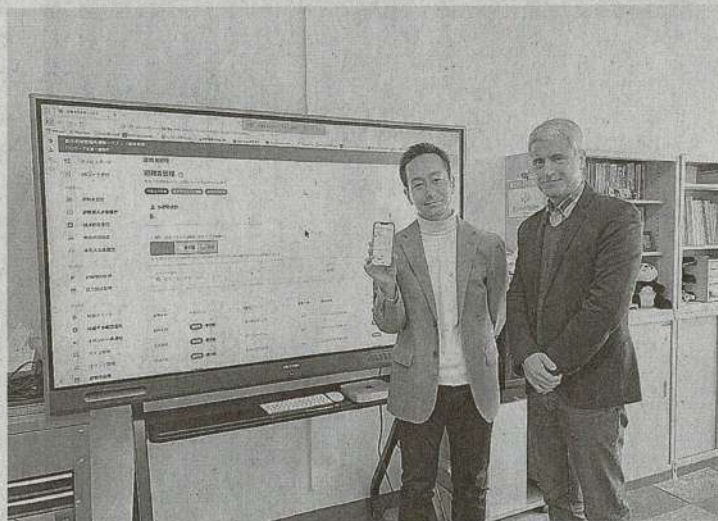


# 車中泊の避難者を健康に

## 熊本市の企業 自治体向けシステム開発中

### 熊本地震 10年



車中泊で避難する人を支援する自治体向けシステム開発を進めているBosai Techの田中洋平さん（左）と崇城大の重原理有教授＝17日、熊本市

コンサルタント会社「Bosai Tech」（熊本市）は、災害時に車中泊する避難者を把握し、健康管理につなげる自治体向けシステムの開発を進めている。安全な車中泊避難を支

援する試み。長時間座り続けることで危険性が高まるエコノミークラス症候群の予防も呼びかける。災害時には「小さな子どもがいる」「余震が怖い」などの理由で車中泊する人

が多い。自治体が住民の避難状況を把握することは難しく、支援物資や医療が行き届かないという課題がある。2016年の熊本地震ではエコノミークラス症候群による死者も出た。

Bosai社のシステムは、駐車場など車中泊の避難場所の入り口で、避難する人の数や年齢、健康状態などの情報をスマートフォンを通して入力する。自治体側は医療や介護が必要な人を把握し、保健師や災害派遣医療チーム（DMAT）

を基に制作した。システムを通し、食事の準備や運動、水分補給を呼びかける動画を避難者のスマホに送信する。エコノミークラス症候群を防ぐために必要な避難生活の過ごし方を発信し、健康維持をサポートする。

Bosai社は、熊本地震や能登半島地震で被災地支援に携わった元熊本市職員の大塚和典さんと、取材を通して知り合ったタレントの田中洋平さんが24年に

設立した。大塚さんの経験を基に、2次元コードを使った簡単な入力方法、動画を使った避難生活の注意喚起などを取り入れた。システム監修は崇城大情報学部

の重原理有教授が担う。今後、自治体などが取り組む車中泊の避難体験会などで、実際に使ってもらおう予定だ。田中さんは「安全に車中泊避難できる仕組みをつくり、災害関連死をなくしていきたい」と話している。（山本文子）

熊本・九州 けいざい